

Paul Klee,
Solitary
and
Solidary



The exhibition has been organized in cooperation with the Zentrum Paul Klee, Bern.

みんなの鑑賞ガイド

ようこそパウル・クレーの世界へ!

パウル・クレーは、1879年にスイスのベルンという街まちに生まれました。1898年にドイツのミュンヘンという街まちに出て、この地の美術学校に学びます。1901年にはイタリアを、1905年にはフランスのパリを訪れ、その翌年よくにミュンヘンに戻ってきます。1912年には再びパリを訪れ、1914年には画家仲間なかまとともに北アフリカのチュニジアを訪れます。1920年にはドイツのヴァイマルという地ちに建てられたバウハウスという学校で勤めはじめ、のちに先生となります。バウハウスはその後同じ国内のデッサウという街うつに移り、クレーはそこでも活躍かつやくします。1931年にはバウハウスを辞め、国内のデュッセルドルフの美術アカデミーの先生となりましたが、同じころにドイツで力をつけていったナチス・ドイツから目をつけられ、故郷こきょうのベルンもとに戻ります。



パウル・クレー (1879-1940)

このように20世紀前半にヨーロッパのさまざまな街でクレーは活躍しましたが、彼の画風はとても个性的こせいてきだったため、これまではクレーという人は、同じ時代の画家とはまったく違う存在ちがとして、その個性やユニークさが注目されてきました。この展覧会では、クレーの作品を、20世紀前半のいろいろな画家や美術運動とくらべてみるにより、クレーの世界をさらに深く掘り下げていきたいと思ひます。さあ、みなさんもいっしょにクレーの世界へ入っていきましょう!



001-c パウル・クレー《ペルセウス(機知は苦難に打ち勝った)
(インヴェンション)より》1904年 東京国立近代美術館



- ① この人はどこを向いているのでしょうか?
- ② この人は今何を思っているのでしょうか?
- ③ この男の人の右には首だけの横顔が描かれています。これは何をあらわしているのでしょうか?
- ④ この絵はどのようにして描かれているのでしょうか?
- ⑤ この展覧会場の中に、クレーよりも100年以上も前に生まれ、同じような技法で作品を描いた人がいます。探してみましょう!



022 パウル・クレー《無題》
1914年 パウル・クレー・センター、ベルン

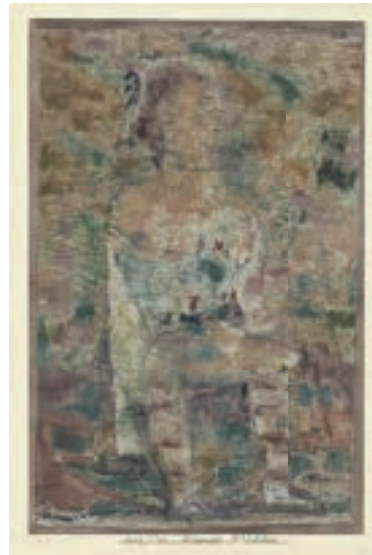
- ① これは何を描いているのでしょうか? 考えてみましょう。
- ② この作品ととてもよく似た作品を描いた人がいます。誰でしょうか?
- ③ どんなところが似ていますか?



027 アウグスト・マッケ《明るい家(第1版)》
1914年 ベルン美術館



- ① このふたつの作品は、彼らがともに同じ国を訪れたときに描かれたものです。その国とはどこでしょう?
- ② 彼らといっしょにこの国を訪れた美術家もうひとりいます。誰でしょう? この展覧会にも作品がありますよ。その人の作品もあわせてみてくださいね。
- ③ クレーのこれまでの作品とくらべてみて、どのような色が多く使われているのでしょうか? 考えてみましょう。
- ④ クレーとマッケの作品をくらべてみて、色の使い方の似ているところと違っているところを見つけてみましょう。



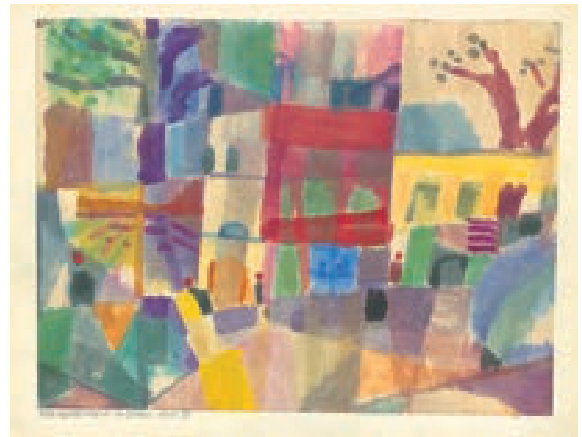
008 パウル・クレー《座っている少女》
1909年 パウル・クレー・センター、ベルン



- ① この作品の色のぬり方は、フランスから始まったある美術運動がもとになっていると考えられています。日本人も大好きなこの美術運動とは、いったい何でしょうか?
- ② みなさんは色のついた絵を描くとき、どのような順番で描いていきますか?

- まず線でものを描いてみる。
- そのあとに色をのせていく。
- 「まずはかたち、それから色。」ではないでしょうか?

ではクレーは、この作品をどのように描いているのでしょうか? 作品をよくみて考えてみましょう。



030 パウル・クレー《チュニスの赤い家と黄色い家》
1914年 パウル・クレー・センター、ベルン



035 パウル・クレー《深刻な運命の前兆》
1914年 パウル・クレー・センター、ベルン



- ① この作品はひとつの作品なのに2つの画面に分かれています。なぜでしょうか？
- ② この作品が作られた同じ年に、ヨーロッパではとても大きなできごとが起こりました。さて何でしょう？
- ③ この作品が描かれたちょうど同じころ、クレーは大切なふたりの友人を立て続けに失っています。この展覧会にも作品が展示されている、その友人とは誰でしょう？作品もみつけてじっくりみてみましょう。



042 パウル・クレー《破壊された村》
1920年 東京国立近代美術館

- ① この作品に描かれているものをひとつずつあげてみましょう！
- ② 作品をみて、そして作品の題名をみて、どう思いますか？

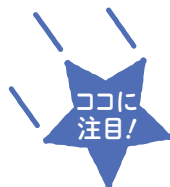


058 パウル・クレー《小道具の静物》
1924年 パウル・クレー・センター、ベルン

- ① この作品に描かれているのは何でしょう？みなさんで考えてみましょう！
- ② この作品のちょうど真ん中に描かれているのによく似たモチーフが、他の作家の作品にもみられます。探してみましょう！
- ③ この作品にはどのように色が使われているか、その特長を考えてみましょう。



071 パウル・クレー《バラの風》
1922年 パウル・クレー・センター、ベルン(リヴィア・クレー寄贈品)



- ① クレーはこの作品で“バラ”と“風”を描いたとされています。では“バラ”はどのようにあらわされているのでしょうか？
- ② もうひとつ、この作品でクレーは“風”を描いたとされていますが、風は私たちが目にすることができるものなのでしょうか？そしてクレーは、風をどのようにあらわしたのでしょか？

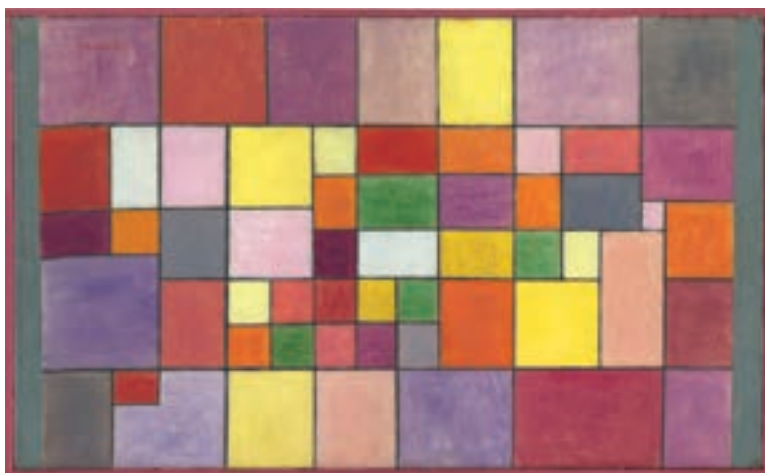


094 パウル・クレー《蛾の踊り》
1923年 愛知県美術館



- ① この作品に置かれた色はどのようになっているのでしょうか？
- ② 真ん中に線で描かれたモチーフは、何をあらわしているのでしょうか？
- ③ クレーがこの作品につけた「蛾の踊り」という題名と、みなさんがこの作品をみて思いついた題名とをくらべてみてください。なぜクレーはこの作品にこのような題名をつけたのでしょうか？

(呂翺舉一14・2140) <11> `464・114・1145/ 42761 《一二三ノハロセ一ロコノモヲ》一14・1145/ 260



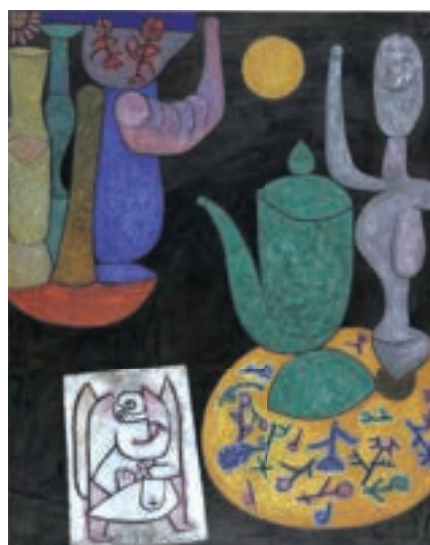
110 パウル・クレー《恐怖の発作III》
1939年 パウル・クレー・センター、ベルン



- ① この図版と実際の作品とをみくらべてみて、おかしなところを探してみましょう！
- ② 次にこの図版と実際の作品とで、色がどのように置かれているかを考えてみましょう！
- ③ この作品につけられた“フローラ”というの何か、そしてなぜクレーがこのような題名を思いついたのかをいっしょに考えてみましょう。



- ① この絵をみた最初の印象はどうですか？ みなさんで考えてみてください。
- ② クレーはこのころ、体調が思わしくないにもかかわらず制作を続け、同じ年には1200点以上もの作品を描きました。そのことをあわせて考えてみて、次にもう一度この作品をみましょう。印象は変わりましたか？変わりましたか？考えてみましょう。



120 パウル・クレー《無題(最後の静物画)》
1940年 パウル・クレー・センター、ベルン(リヴィア・クレー寄贈品)



- ① この作品に描かれているものをひとつずつあげてみましょう！
- ② クレーは自分の作品に謎めいた題名をつけることが多かったのですが、この作品にはつけられていません。なぜでしょうか？